

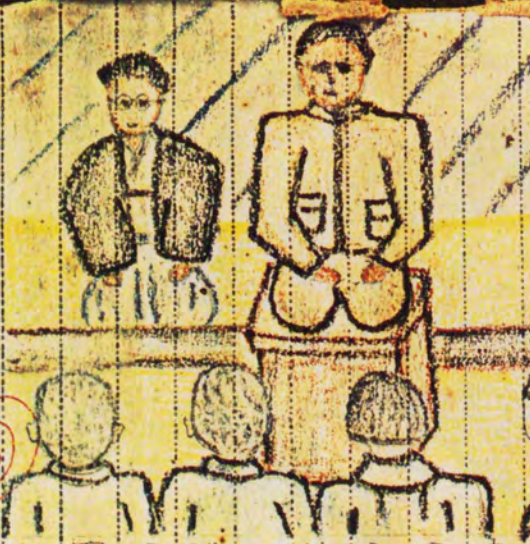


今日は終戦になって始めて迎えるお正月だ。もううだった  
り初日の出ををがむのだが、今年は富山へ来て厚が降って  
ぬる駕初日の出ををがむ事が出来なかつた。

だが東京では平年と違って餅無正月だが私達は先  
生方が苦らうして下さったのでおいしいおさう煮をいた  
たけるのだ。御あいさつの時お目出たう御ぞめますと  
言つたがあまりお正月気分が出なかつた。

新しい氣持で學校へ行った。久米川とは違って、おさう煮  
のお餅は八切だった。少しめたかつたがとてもあつた。朝と  
は違つてもうすっかりお正月といふ心持になつた。二三年の入  
はふうふう言つてゐたが私は後にはいたただける位だった。  
九時半までお裁縫室に居た。お式の時町の青年學  
校の方々も参列なつた。今日お入したになつたお勸語もす  
讀なつた。私もそれを實行して新しい日本を建設して  
行かうと心にめたく誓つた。

すんでから續いてサ學校の方  
のお式があった。それなのであ  
るまで廊下で羽根つきをした。  
せまい上に両側が窓なのでに  
てもつきにくかつた。  
講堂があつたので行くところ  
として来た。お晝食まで前  
野さんと二人で羽根つきをした。  
なは飛びのおまわしをしてい





る人もあった。

午後は寮で年賀状を書いた。小林田せんも遊びにいらっしやうた。お八つに千柿とじゅくし柿とあめをいただいた。

じゆくし柿の皮は少しふい所もあったが、たぬのまはり  
はじめてもおいしかった。

夜は大御馳走だった。白米の御飯・煮付・煮豆・たけの

こぶり・お食後にはりんご・干柿などあった。すんでから

阿部先生のさつまびわや他の先生のハ尾ぶしスキトぶし  
などして下さった。お腹がいっぱいになったので、干柿を感

いて歸つた。就寢用意の前に教官室でレコードをかけた。なから興樂會の題目をきめた。あげく舌切雀とわらべ

散にきまつた。少しおそくなったので、お詣は遅かつた。

一月二日水曜日

今日も朝食はお糰子だった。その他に煮豆やかすのうりも

お食事堂番つゝお雞煮を一番に持て來つゝ

數ふべからなくなつて困つたお正月がらうたがしにいでし

はた目なと思ふ一番たふかのぞ持一ス一本

千箇中は衆歸したせうしてすくお尺鉢に尺をうつして

らお書やめの用意をした。先生の歸つては、いらぬのかお

そのので練習を始めた。四年生は全部、新生日本で五年生

は自由だった。たゞ『**新生日本**』と書いた人も三四人あった。私は

たれも書かたなり。『再建日本』と書いた。その他に『新日本建

設『松上の雪』と書いた人もあった。

No. 3

出發用意の時、まだお清書が出来なかつたので、そのままに  
して行つた。さうして、さきいただいた後、ちんちんに「誠に、  
うのおとし玉のこゝろを先生に申し上げた。

午後には寮へ歸つて、お書ぎのめをした。私は紙を二枚一  
けて書いた。書き終つてから、野村さんと下へ行つて明日の練

習の洞根つきをした。一人來た。二人來たと言つたのをあう

ちの方へいらしたの取づかしたニ回續々やうに

なつてから上へあがり日記を書いた。夜は白米の御飯に

りふじ・千柿・乾燥所のはにうたせり！  
 ぬめいのくきふつめい

セリーなとあったとてもしいしめた今日(1)は生(2)任(3)を(4)

た 先一番は石田先合をすきよ一十

言口  
頤文  
た人  
か次  
か入  
女  
指


 した。君と君さんは大坪さん

どに、しよに米山さんから女こ

歌った。三須さんの詩吟も

てもお上手だった。明日は中

限さんから、今日は終になった。

うた。聲へ 踊ってから、猿ちやん

や誠ちんからのおとし玉

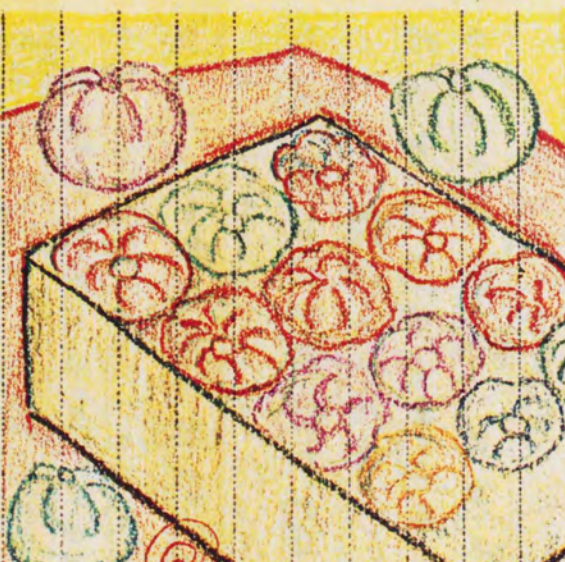
物をあげた

本當に世の子の使に可參らしむ。お爭王たきた

二月三日 水曜日

正月 廿一日 三度 其の廿五日

卷之四

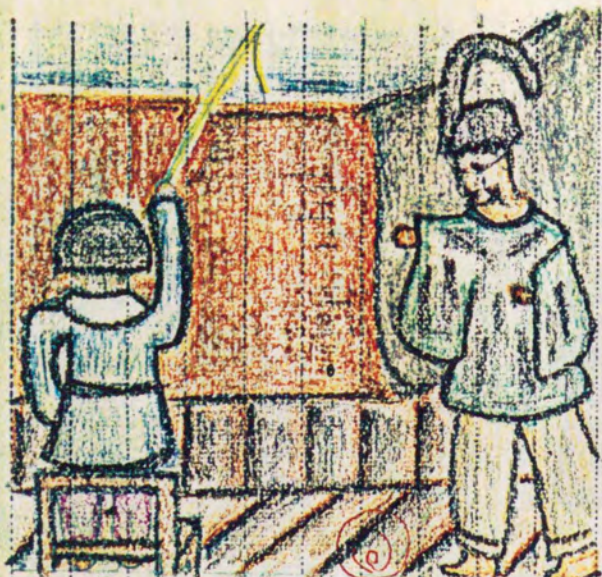




まるのだ。今日は前田寮のお餅なので六個だった。厚くてとてもおいしかった。午前中は寮へ歸って夜しよをづけないで、お切金とわらべ歌のあけいこをした。堀先生の大禮服製を見せついたので十時四十五分に出發用意になった。その時色々な道具をこぼりに入れて持って行った。

お裁縫室に行つて少しすると堀先生がいらした。まんにをおどりにするに金でびびり光って首にはくんと三等のくんと章をつけていらした。左の胸には大正天皇の御印く恒のお式の時のと今上天皇の御印く恒の式の時のと六百年祝賀記念の時のくんと章をつけていらした。前にはごせの桐が光つてとてもきれいだった。

お書食後すぐ振舞會をした。青年會の方がお裁縫室をお使いになるので私は音楽室に移った。今日は先生も中におはりになったのでとても面白かった。



その中でも一番上手だと思つたのは、二部六年の世にも御さくは人の命といふめだった。大島さんの知尚さんは本當のやうだった。十四番まですんでから、少し講堂で遊んで福つりの用意の出来るのを待った。いよいよ今度は楽しみな福つりだ。ハさに組めらった。寮の子供さん方も順についた。

堀先生も私達の前にあつりになった。それは水酒だった。平松さんの次はいよいよ私の番だ。何がつれるだらうか、早くたいてい鳴らないかなあと思ひながらつり竿を持って椅子の上で待った。ドンドノと神様のお鳴らしになるたいていしよに勢いよく竿をあげた。べん當ごぼりの中にウエフースと鉛筆一本がはいつてゐた。ウエフースの香はとてもよく早く食べた。いやな気がした。他に、お餅・干柿・爆弾あられにぎり飯・とうろ・さといも・じゃがいも・敷の子・ぎんなん・みんのめんづめ・みかん・りんごなど色々食物と、西洋紙・鉛筆・けしゴム・カレンダーなどあった。それがすむと丁度夕食だった。今日も白米の御飯だった。

一月四日 金曜日

今日から第三學期<sup>の</sup>授業が始まるのだ。

朝食後一時間<sup>の</sup>主事先生の講話をお聞きた。それは、これから歸るまでの事だった。三月十日までは體だけは東京へ歸れるが荷物はそれより早く来るので、東京へ歸つてからはまだどうなるかわからないといふ事などだった。早くスキーが出来て来ないかなあと思った。昨夜想像したやうに東京へ歸ってからさうしたらうどんなにうれしかったらう。面會はあるし食べてもよいし外出はあるし本當にいいなあと思った。二時間目から授業をしたが私達は三三三時間目ずつと自習だった。欠録に當りながら日記をつけた。やはり机に向つて書くより書きにくかった。お書食のお味増汁の中につめれがはいつてゐた。



おうちに居た時降組へつみれを配ってその時「すみれの配給です。」と言ってまわった事を思ひ出しておかしくなっていました。午後は寮で日記をつけたりしてゐると、富山から出ちよう所長さんがいらした。御あいさつをするので、すぐ茂木先生と一緒に本部へいらした。

夕食の時外では吹雪がものすごかった。

夜歸つてから、みんなで福袋を開いた。来ない人は本當にかわいさうだった。



みんな千柿とかあめとかいろいろな物がはいるおたが私はやはりお母様の真心のこもつてゐるのぼんちなものでも有がたいと思った。

一月五日土曜日

今日は新年あそび會だ。さうして堀先生がこの附近の先生方にお話をなさるゝので私達は寮へ歸った。

少しすると阿部先生茂木先生柳内先生も歸つていらした。ひな菊のお部屋にひもをはって、お書やめをはった。先生が四年生の方が元氣があつていいわ。とおっしゃったので五年生のくせに負けてしまつて残念だと思った。

大沢さんに待ちに待った福袋をあけてみんながそのまはりを圍んでおたが私は日直だったので梅谷さんと二人で火をおこした。それから私はこたつに當つて日記を書いた。

午後は福袋を開くので楽しみだ。夕食に行ふ時も胸がわくわくしてゐた。午後は寮へ歸つて早く先生が歸つていらした。あんなにめなあと、窓から道の方ばかり見てゐた。

さうしてシヤツのわきを縫った。どうして先生は歸つていらした。さうなかつた。夕食に行くと茂木先生と柳内先生と梅山先生がスキーから歸つていらした。

夜とつて福袋を開いた。さうしてあそびの方にゆづついろいろな物を出した。私は鉛筆とおかんをよ出した。た。あめ、すくめ、りんごを出した人もあった。

それからみんなに分ける物を集めたさうして平松さんの航空食坂口さんの南京豆のあめ聖村さんのいりまめ大沢さん梅谷さんの南京豆平

松さん高島さん船のみかんをいただいた。こたつに當つていろいろな物を出した。

いた。平松さんにあめをいただいた。先生に就寝用意を八時に送っていた。

いた。みんなおもしろいものばかりだった。夜阿部先生にお話をしていた。





一月六日 日曜日

朝食終り日から一週間食糧運搬なので私の列は本田寮へ  
平松さんの列は西尾寮へ行った。歸つて來ると丁度体操  
をする所だった。五分位めけ足をしてから十分位体操を  
した。それから二三年四五年六年に分れて追廻根をし  
た。一回練習してから二人づつで決戦をした。私は岩倉さ  
んにだった。が消防署の方がお使ひになるので中止にな  
った。お書まで圖書館に居た。先生はスキーをしにいら  
っしゃった。午後には寮で福袋の物をいただいた。

一度しまつては又出してゐた。ただいた。坂口さんや平松さんは、  
二三度しまつては又出してゐた。  
先生が途中で歸つていらつした。夕食の時、松さんがと  
うとう残してしまつた。他に残した人も三人あつた。

一月七日

今日は七草粥で朝食はお粥の中にお餅が二つづつはいつてぬた。今日でお餅も最後だと思つてよく味やついた。今日は二日目の授業だったが喜門先生も加藤先生もいらつしやうなので、自習ばかりだった。大根運びから歸つて來てから火鉢に當つて日記を書いた。

午後は療へ歸つて又福袋の物をいただいた。私はたんたん少  
くなるのでつまらない。もう一つ福袋を頼みたくなつてしま  
った。早く後の四人が揃ふといいなあと思つた。

夕食はおはぎだった。あんこのを二つごまのを三つ半にお煮付それに干柿の焼いたのになま餅二つつだった。

三つ位いたたきとお腹かはってしまったのでおべんたう箱に  
入れて持って歸った。うちめら食物づめのはかさか來てうらや  
夜は一班（王）めらお風呂名にはいった。その前に感して來たおは  
ぎをいたたき千疋も一つたいたこげてゐてかさかさし

黑豆くろまめて干柿といふ氣がしなかつた。

お口取(きん)  
せしま(せ)

それからお風呂にはいった  
おみ洗もしたか零くつゝあに

なつてしまつた。あつて、めづる片  
付けておふんを敷いた。すぐ  
と齋藤先生に阿久津先生が  
お風呂にはいりにいらつてもう  
て阿陪先生と話していらつしや  
した。今日は特別ごあいさつを  
しないで床へはいつた。

一月八日火曜日

今日は前だったより觀式があるのたが、戦争に破れたので陸軍海軍もなくなつたので出来なくなつた。それにお師様のおたん生日なのでこちらでいたただいたいろいろな物を葉書に書き綴で御馳走した。

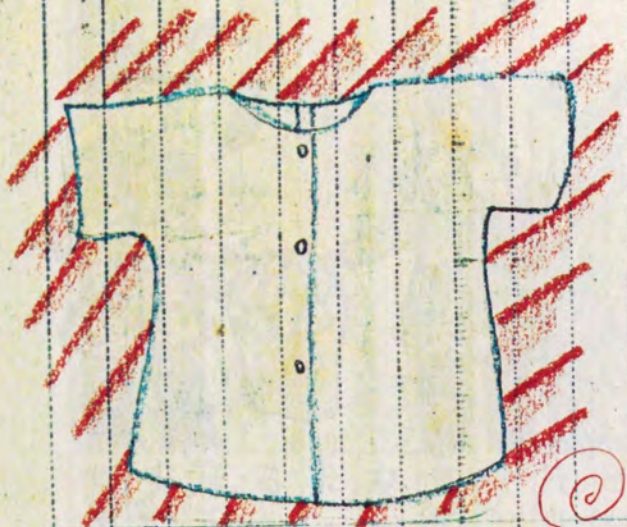
繪で百姓に即馳せて来て、  
「おはようございませう。」



今日も自習ばかりだったのでお裁縫をした。水がかりをし  
てからボタンをつけた。さうして先生に見ていただいた。  
おきの所がどうしてもへんなので何回もやりなほした。

午後寮へ歸るとさ中根さんと追水さんの小包を本田寮  
へ持って行った。まは様子がどなたか二人ひもがこけてどけ  
られないから郵便局までとりに来下さいといひに来ました  
よ。とあつしたので先生と知って、先生と柳とよあつたて  
すぬなどと言ひながら行くとい他の寮の人のもうもつて行つ  
たさうだ。歸る来るに田中さんがだれのですか。と聞いたの  
で他の人だったのよと言ふとつまらなさうにしてゐた。でもぬ  
かれてゐるよりはあつた方がよいと思つた。  
追水さんも中根さんもあつたがいろいろな物をお集  
めになつたりしくいろいろ沢山はいそゝめた。私もあつてもい  
いから沢山はいそゝめた方がよかつた。と後悔した。

ウレシイオア



するめや、キャラメルをい  
だいた。  
夜お腹がいっぱいになつた  
ので寝て来た。さうして大沢  
さんのさけくめんを少しづつ  
だいてあかすにした。  
それから平松さんとお手玉を  
した久米川の時よりも下  
手になつてしまった。千柿も  
一ついだいた。

一月九日 水曜日

朝食後お天気がよいので出来るだけ沢山大根を運んだ。  
をけの数が少いので思つたより少ししか運べなかつた。

少し児童えつらん座で尺鉢に當つてからストロブのお部屋へ行  
つて日記を書いた。茂木先生が田中さんの荷物を取りにいら  
つてあつてあまり大きいのびくくりしたため。と言つていらつした。  
田中さんに言つたらどんなに喜ぶだらうと思つた。

それからシャツの糸はしなどをしまつて、名前をつけて米山  
先生にお出しした。晝食の時久しぶりにカレーをいただいた。  
た。代用の粉だったがつてもかろくておいしかった。

午後はいつものやうに福袋の物をいただいた。前野さん田  
中さんの小包が来てみんな揃つた。

夜大沢さん前野さん追水さんのみかんのくゆんづめをいた  
だいた。甘くておいしかった。それから少し遊んでゐると先生  
が一人づつ順にいらつしやうとお  
つしたため住所のことかと思  
つてゐると福笑ひだった。



おめさんではなくてひよつ  
にこだった。私は平松さんの  
次にやうた。片目は丁度よく  
當つたがあとは少しづつづれて  
しまった。みんな面白い顔に  
なつた。先生も、とてもお上手  
だった。



一月十日 木曜日

昨日の雨が雪にかけ、朝から粉雪が降っている。行きに本田寮へよってお米を持って行った。その他に梅谷さん、坂口さんは、深ぐつをいただいた。

朝食後少し雪が降、つゝたが、西尾寮へ大根三日分と味噌汁をとりに行った。四五六男の人は、そりを引いて帰って来てから、一ばんえつらん室に行つて日記を書いた。

四時間目は本郷の國史講座第一日をやった。どうして今までのはいけないのかといふと、神様のことをうそのことまで書いてあること、日本は世界一だといふやうに書いてあること、位の上の人のことばかり書いてあることなどとおもしろい。戦に破れた日本にとつては本當にそんなことはひつようでないと思つた。午後は福袋の物をいただきながら日記を書いた。



それから出発用意まで小泉さんの手袋をあんた。五分前位に出来あがつた。

夜はトランプをしたりして遊んだ。十二支合せや、双六をして遊ぶ人もあった。

床をひく時、追水さんの所がものすごく高くなつて、息をひきこちやいやよなどと言つて笑つた。

一月十一日 金曜日

今日は第六日目の授業だが、全部自習なのでストーブの部屋へ行つて日記をつけた。三年生の人ばかり授業をして、四年生も自習ばかりで國語だけしてゐた。

日記をつけたら、ストーブのまはりに椅子を持って行つて新聞を読んだ。今までのと違つて、横文字で下にローマ字が書いてあった。戦争はんざい人のことなど、あまりいいことも書いてなかつた。書食後は寮で、こたつに當たり、欠辭に當たりして福袋の物をいただいた。私の物が全部なくなつてしまつた時、追水さんがあめや、するめを下さつた。阿部先生が歸つていろいろしてすぐおやすみになった。うっかりさゆいで又しめられるといけなかつたと思つて静にしてゐた。

夜たいていの人はみんな食べてしまつた。さうして追水さんにびゅとくりきんとんのくめんめをいただいた。とても甘くておいしいかつた。久しぶりで甘柿もいただいた。つめたくてはにじみ出るやつだ。

二班のあめからお風呂にはいった。前野さんに又いろいろな物をいただいた。私は一番後だったので、茂木先生とはいつた。出たから浴槽を洗つていた。だいたいすぐお床へはいつた。





一月十二日 土曜日

今日は休養日だが午前中は図書館に居た。私は少し火鉢に  
 當ってから羽根つきをしながら講堂へ行ったが体操をしていらしたるの  
 で廊下の所へ行った。天井が底いので思ふように行かない。  
 少してつゝゐると福光校の人が見てゐるので恥づめしくなつて他  
 の廊下へ行つてつゝいた。もうやめようかなと思つてゐると羽根が  
 がくの中にはいつてしまった。自分の羽根でよかつたと思ひながら  
 ストープのお部屋に行つて朝日グラフを見た。しばらくする  
 と浅水先生も柿内先生もスカーから歸つていらした。  
 午後は浅水先生も柿内先生もいらしていらなくて所部先生だ  
 けだった。さうして前野さんや迫水さん小林さんが福袋の  
 のを食べてゐると、みんなにみんなの前で見せびらかして食  
 べるんじゃない今日中に食つてしまひなさいと御氣元もの  
 すごくななめた。私は早くごちうめお一人の先生でよい  
 これやこの  
 ゆくも  
 かへりも  
 わかれては  
 しるも  
 しうぬも  
 おほさかの  
 せき



から歸つていらした。  
 なあと心細い氣持になった。  
 夜は小倉百人一首をした。  
 源平に別れてゐた。私の友が勝  
 った。それからサボレアンと七並べ  
 や5/やといううなことをした。  
 七並べはゆうれいになつたりし  
 てとても面白い。あちらのあこ  
 たつでもゆうれいとめいりう  
 なことをしてゐた。

一月十三日 日曜日

今日はこの前の追羽根大會のつづきをするのだ。始まる前にか  
 け足をした。柿内先生が苦しくなつたら休んでもいいわよ。とあつ  
 した。少しかけてゐたが苦しくなつたのでぬけた。さむけがする  
 ので図書館へぐいといを著に行つた。さうして瑞の方でみんな  
 の体操を見覺した。ひもをけつていよいよ追羽根大會を始め  
 た。堀田さん河野さんおすんでから私と岩倉さんだ。男子  
 に負けては恥じたいと思つてゐた。私の方が勝つてほつとした。  
 次は高島さんとやつて負けてしまった。少し寒けがするの  
 で次事室に行つて少し火に當つてからお蔵發座に行つて大沢さ  
 んと二人で火鉢におじりつゝゐた。いろいろなことを話してゐ  
 ると岩地先生ハ鋏先生阿久沢先生がいらして、あなた方は  
 どうなさいましたか。とおっしゃつたので顔を赤せました。  
 一等高島さん二等荒木さん三等は平松さんだった。



午後は浅水先生が立野ヶ原へス  
 ーをいらいらしたため柿内  
 先生だけだった。すぐみんなを  
 のべてゐた。ふとんをぬけても  
 寒けがしてゐた。  
 夜みんなが、トランプをしたり、  
 ギズケーをしたりしてゐるの  
 したくてむづむづしてゐた。就寝  
 用意のころ浅水先生が寝てい  
 らしてやつてとてもいそいそとあつた。



一月十四日 月曜日

今日も朝から頭がいためたので熱を計って寝ておた。みんな学校へ行くのを見てゐると行きたくなかった。朝の食の時茂木先生と柿内先生が火をおこして下さってあたたためて下さった。さうしてそれに生卵をゆけていた。ただいた。

いつものお粥よりずっとおいしかった。みんなにして下さる先生の有がたさがいっそうよくわかった。

ただいたしてしまつてから又床にはいつた。さうして、今みんな何をしてゐるだらうと、あと歸る日まで何日かとめたいくつなので俳句を導かばせたりした。十二時のサイレンが鳴つて少しすると先生が学校へいらつした。

お晝食はさといもと大根の煮ものお味で計だった。



その中に卵を入れていた。たいた。みんながお粥に草餅と白のお餅をいただいてゐた。私は夕にいただいた。夜にたことした。

夕食まで百谷子さんが電気をつけて下さったのでそんなに淋しくなつた。夜あつゆの中に草餅を入れていた。ただいた。

一月十五日 火曜日

今日はもうだいたいいいが少し頭が痛いので寝た。

体重測定だが計れないのでつまらない。どの位ふえてゐるのだらうと思つた。先生は体重測定で昨日よりお歸りになるのがおらくおなりになった。百谷子さんが、お腹がすいたでせうとおし、お汁粉を持って来て下さった。こちらでは今日お汁粉を食べるさうだ。中にお団子が五つ六つはいつて行つた。あたたたくて、とてもおいしく甘かつた。お食事、を少しおそくいただいて、又卵をゆけていた。ただいた。久しぶりにおつけ物もあつた。いつもあたたたくしていただいて有がた。と思つた。先生がふえた中で一番少くても95で多い人は100でした。とあつたのでびっくりした。私はどの位もな中根さんと同じ位かなと思つてゐた。

甘イオニルコ



オイシイタマゴなつた。

お晝みんなお粥を持って歸つて来た。先生は、阿部先生のお話と聞きにいらつした。日直さんはお風呂たきで太変だった。夕食の時みんな早くおへつて来たのでびっくりした。白米の御飯、大根、里のもの、煮付、干柿、みかん等あつた。みかんも干柿もとてもおいしかった。夜私と大沢さんはお風呂にはいら







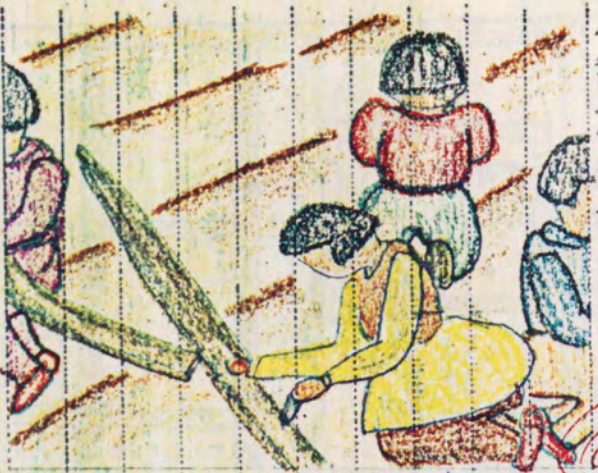
一月十八日 金曜日

朝食がすんでからすぐ寮へスキーを取りに行った。昨日配給になった黒いローも持って行った。学校へ行くと体操教室で三つの火鉢を囲んで指まるのを待ってゐた。図書館にゐる人もあった。

みんなが揃ってから、岩地先生に頼じよを聞かしてから、石田先生にスキーについていろいろ説明して下された。

最後にローをぬるのを教へていただいた。アイロンのやうな中に火を入れてローをのけながらなされた。とてもきれいになされたのでお達ももう出るといふなあと考えた。

それからふんふんやあかす火を使つて、ローをぬる。お達も中々思ふやうに行かぬ。ローを所所にぬつて、先生にしていた。お達もするのにも大へんだった。皮に火をあげてゐるうす。



お食事に書いた。

午後には、寮で日記を書いた。

お八つに、寮原さんの所へ送つて来た。

するめとみかんをいただいた。

早くためてある日記を追ひつかせようと思った。

夜はお火鉢に當りながらおきんをかめたりして、はきぎを持ち出して来た。大沢さん、追水さんといろいろなことを話した。お水うをいっていただいから寝た。

一月十九日 土曜日

今日は朝から火鉢に當らないで、日記を書いた。今日出す番なのに、たまつてゐるので気があてなく、火鉢に當る気がしない。

ずっと日記を書いてゐるうちにお昼食になった。

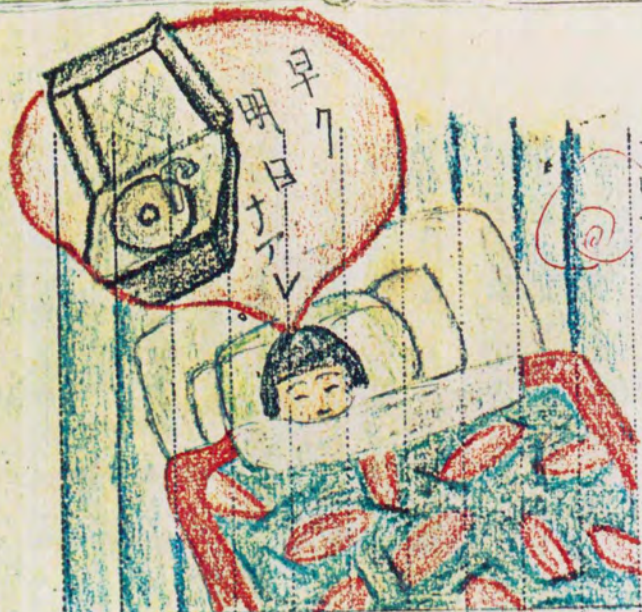
後で平田さんが、柳野さんが痛いだら洗つてやういと言ひつて下さつて、私が大文夫だからいいわよと何回言つても洗つてやうと言つて洗つて下された。その時丁度炊事場のお掃除だった。左手だけでしぼるふかうとすると、そこ高島さんふく所よ、と言つて私に何もやらせて来れないのでいやになつてしまった。

午後はめん字だけでお柳様にはがきを書いた。追水さん、小林さん、前野さんは先生に算数を教へていただいた。お風呂なので頼にたきに行つた。

夜寮へ歸つてから、お風呂にはいった。阿部先生も歸つていらした。

お風呂から出て少ししてから、就寝用意になった。

おできのお水うをしてから、ぐ寝た。明日、図書館のをちさんがレコードコンサートを下さるさうなのでとても楽しみにした。





しつとさくんに書いておるわ  
疎間もあと僅かですわ  
元気で仲よく過ごさう  
柳野さんは最近級の人達も離れておる様ですか  
どうしてですか

他のみかどんは悪口を云ふのですわ

悪口を云ふ方の人を悪いですが、何とか言はれる

方もとどか悪いところがあるのでもうすかい気もつけ  
おやうわ

三上り様

一月二十日 日曜日

朝食後西尾寮へ新を取りに行った。歸り来ると丁度つな  
引きの始まる所だった。今日もうんと張り切って勝たうと思  
った。一回戦がすんで場所をこうたいにする時、すべらないや  
うに、足袋を脱いでばだしになった。

男サ別々にあった。三回戦で二回私達の方が勝った。

次は男子だった。男子も私達  
側の方が勝った。それから、すぐ

椅子を持って一ぱんえつらん室  
に行った。入口の所に、をじさん

からのプレゼント、コンサートと

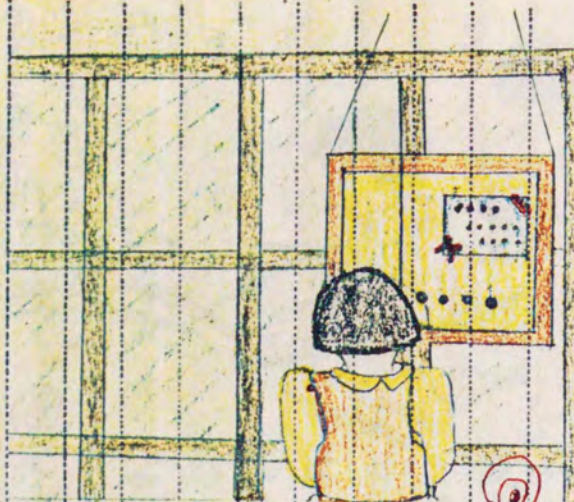
書いたポスターがはってあった。

みんなすわって石崎さんのお

話を聞きた。それから、レコ

ードをめぐって下った。

くるみ割人形を先づき下った。



った。いつつにも分れてあつて、金米<sup>糖</sup>のをどりと面白  
のだった。すんでもまた時間があつたので、おこのみの物を  
かけていただいた。みんないい曲ばかりだった。

いつもより少し早いがお昼食をいただいた。

午後はそれぞれ自由なことをした。私は先生に日記

をお出ししたのでおめ物をして遊んでみた。

夜寮で火をいつもより沢山さんおこして、ぎんなん

を入れた。ぽんぽん飛ぶのでひなんした。それから、す

めや豆もちや焼いていただいた。

一月二十一日 月曜日

朝食前いつもより十分早く来て、大寒めけ足をまとい  
る大寒くんれんをした。来た順に、二列に並んでめけ足を  
した。走って行くうちに、暑くなったので、列から出て一枚二

枚と脱いだ。何回かまはって、もう体操のたいけいに開い

て体操をした。それから、さつぱ

りした。気持ち、朝のどきどき

をした。腹中がぼわぼわして来

て、とてもよい気分だった。

午前中は、図書館で西遊記

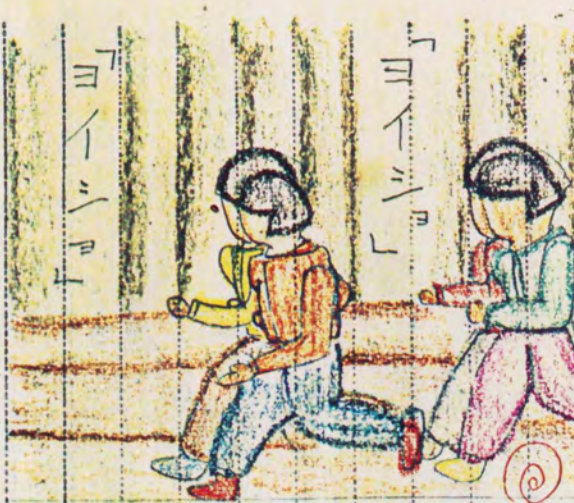
の本を讀んだ。授業は國史た

けあった。終つてから先生が「讀

賣報知にこんなことが書いて

あったよ、われ、これは本當の天

皇で、今の天皇はうそである





「いふやつがあるんだ」とおっしゃったのでびっくりしてしま  
 った。また、あいた口がふさがらぬと言ふのはこのこと  
 だ。午後は寮へ歸つて、テニスをあんだ。高島さんもさ  
 めんにぬって中してゐた。時間の過ぎるのも早いものでた  
 まちお發見意になった。平松さんと八百谷さんは小包が  
 来てともういれさうだった。

夜は岡部先生のお歸りになる前にみめんと、平松さん  
 おうちから送つて来た航空食をいただいた。それに昨日い  
 ただいた豆腐をもう一ついただいた。  
 寝る時又いふりで本を讀んでいただいた。うるはしと  
 是といふ本でとても面白かった。がこれめづるめはいさうに  
 なるさうだ。もっと先がお聞きした又あった。

一月二十二日 火曜日

今日も少し早く行つておけ足をした。昨日は後の方だった  
 が今日はわりと前の方だった。  
 福光校の人が入口の所で首を  
 き出して見てゐた。朝のお粥  
 の中に又いふりで、さつまいもが  
 はいつてゐた。この前の時もう  
 これで最後だと思つてゐたが、思  
 ひもようすあったのでうれしめ  
 った。  
 午前中は、日記をつつけて、  
 火鉢のそばであみものをした。



大沢さんに小包が来た。明けてみると、長づつめはいつ  
 てゐた。それで大沢さんは飛びあがって喜んでゐた。  
 お晝食後は寮で前野さん平松さんはお風呂のたき  
 つけをなさった。私はテニスをあんだ。

夜は大根こんにやくと薯の煮つけだった。たうも  
 あったかの先生方はお話がおありになるので、いらっし  
 らなかつた。明日の予定をお聞きしたので、それによ  
 り寮へ歸つた。私はすぐ火を見に行った。

はいる順におもちをいたいた。お湯が熱くて、うめ  
 るのに大へんだった。出つてからすぐおぬた、おにんの中です  
 を護んだりお話をしたりした。

一月二十三日 水曜日

朝食後すぐスキーをした。私は皮に穴をあけていただ  
 いてゐたのでおくれしました。相模原のそばの土手の方で  
 登る練習をまはれ右・右むけ

◎

右・左むき左むきをした。

それめづる、石田先生の後をついて  
 すべつて五メートル先をまはつて来  
 た。少ししてから思ひ思ひのすべ  
 りおたをした。一時間はあり、さ  
 りから一度おからすべつて、お部屋  
 にはいった。しりもちばかりつた  
 のでもんべがぬれてしまった。はさ  
 めへスエ行くともうおまてゐた。





源平でなくばらだった。

一回やめてからお昼食になった。午後三回勝った。

源平で七人と八人に分れた。先生方もなさった。

すんでからすぐ寮へ歸って日記を書いた。ワッブル・あめ

豆餅など食べた。歸って来たのが二時半だったの

で出発用までずっと来ってしまった。

夕食の時久しぶりでおりんごをいただいた。

寝る時床がへをしてくすすうんのひなぎへ四人行

って梅谷さん中根さん私は百合へ来た。

一月二十四日 水曜日

今日は休養日だ。午前中おこたつにあたりながら

あめ物をしていると百合の方でがたがた音がした

ので窓をあけて見るとお君の入がをけをすしてい

らっしゃった目がほほえていらっしゃる方が「こんにちは」

と。

② じか面白いことばかりおっしや

ったのでおもしろくなった。

昼食後炊事場の大掃除を

した。お掃除でない人は西尾

寮へたはらやなはを運んだ。

それから寮へ歸って火をおこ

してゐると前野さんと中根

さんが四人の方いらっしやいて。と

言ひに来たのですぐ行った。

階上でレコードコンサートのこと



だった。レコードがすんでから寮へ歸った。

夜明日のスキーの用意をしてから木村田さんめうい

ただった千柳を二時半づついったいた。こがふいておてと

ても甘くておいしかった。

一月二十五日

今日は昨日先生がおっしやったとほり五野ヶ原へスキ

ーをしに行った。おべんたうとおゆんを打ち各寮に

割あてられた物を持ち校門の所から三年三年の順に

並んだ。右の肩に持ったり左の肩に持ちめはったりし

た。高宮橋を渡って少し行くと雪の道だった。

比賣神社のあたりでスキーをはめた。なめなめは

められなくて一番びりになつてしまった。さうしてサ

の先生方に追いつかれてしまった。ストックがなけいので

平地をすべるのはちよとこなんだった。

だがたいぶすべれるた。やうに

一度ルックサックをおろしてか

りすべりに行った。

昼食の時あたためた味の味

増汁をいたたたいた。あつくて

のどに通らなかつた。

午後あつた。雨が降り出

したので歸る仕度をした。

歸ってからすぐお夕食にな

た。はがきが来ていてうれし

かった。





一月二十七日 日曜日

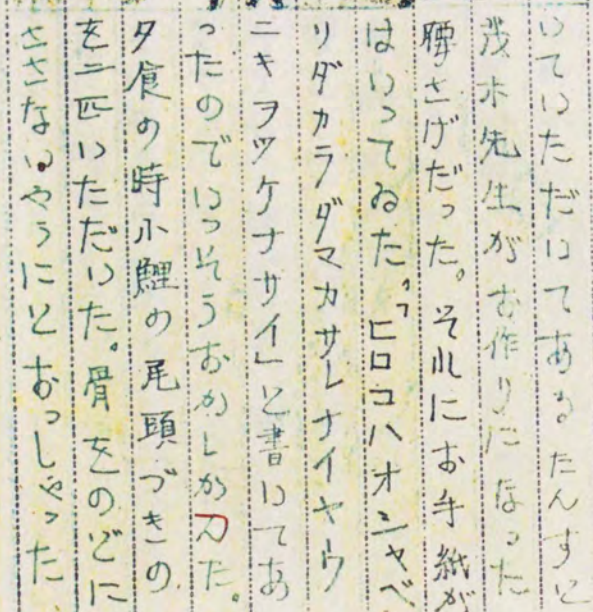
十一時頃になつてから、平松さんと一しよに高木さんへ  
行った。お客様が三四人来ていらつた。

すんでからすぐ學友へ行くといふ度始まる所だった上は使っていたらるので、理科室でいたいた。

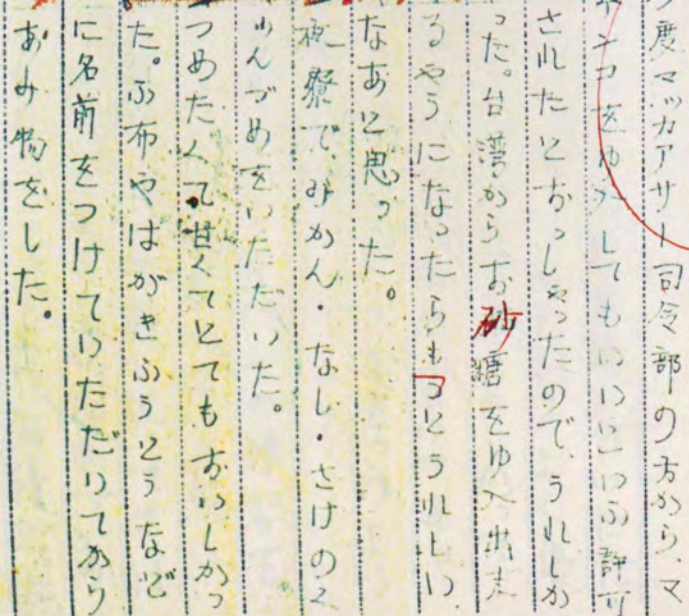
三日飯でお味噌汁はなめたが、とてもおいしかった。

午後は二時半から迫水さんと二人でお風呂を洗った。  
 り水を汲んだりした。山崎さんは、お風呂の火をたき  
 つけた。あがつて來てから山崎さんに小包が來てゐるよ  
 よと言つておどめすじ本氣になった。

さうして、ただ、つゝ來てあけて見ると、先生の所にお



がさしてしまった。



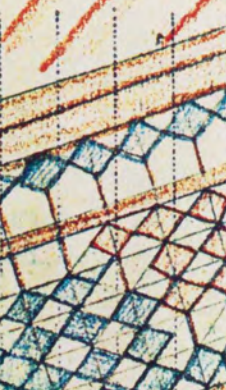
今日は日曜日でもあったり全校たんけんがあるのだが、新しい時間表の第一日目だった。久しぶりで、お授業をした。算数はワロバンの掛算をやつて、もう理科にうつり、針穴寫眞機のことをお習ひした。針穴なので、景色が逆に見えた。晝食は理科室でいた。だいた。

平後は日記を書いた。小林さんに種袋が来て、ポーナツ  
 ツビ、干柿が、あめをいただいた。サユリーンが、もはいて  
 めてきれいなぎん紙につつんであった。

日記を書いてから、あみ物をした。八百谷さんに、貝け  
ないやうにと一生懸命あんだ。

夕食後りんごを一つづいた。たいた。

新聞の古知らせの時、今度マッカアサト司令部の方から、マ  
ニラ港から一トンのメリケン粉を運搬してものにいらふ許可



されたとちゐったのでうれしか  
った。台湾めうお砂糖をゆへ出ま  
るやうになつたらもうとうれとい  
なあとこつた。

はん  
に  
夜祭で、ひあん・なし・さけのえ  
らんづめをいたいた。

つめたく、甘くてとてもおいしいかつた。ふ布やはかきふうとうなど、に名前をつけていたたりてあり、おみ物をした。



一月二十八日月曜日

朝めけ足がすんでごあいさつがすんでから、いつもだったうさうでもないが、今日にめぐって、お腹がすいてしまった。

國語の時間は自習だったがお裁縫の型紙をたった。昨夜先生にもう一度計って下さい。もう一度計って下さい。といって背を計っていたり、その他腰廻り胴廻りわき丈などを計っていたのだいた通りになった。

早く布をたって縫いたいなあと思った。算数の時間に割算の珠算をした。掛算は後からやってくるが割算は頭からやっていた。

お晝は久しぶりにこほりゃんがはいてゐたお腹をこはさぬやうにとよくめんではいた。

午後は寮で自由だった。この前の残りの人は片屋さんへ行った。植谷さんのあうちから送って来た。ドーパツと



あめをいたした。

夕食の時さばの味噌煮をいたした。

夜柳内先生にワロバンの練習をしていただいた。これか

らうんと練習して早く出さ

らうにならうと思つた。それから分敷をしてからあみ物をした。

一月二十九日月曜日

二時間目の古習字の時、少し練習して祖先子孫美風之本を見ないでお清書を書いた。ぎやう書でなめなめうまく出来な

めた。お裁縫は型紙を切り抜いた。算数の時間をつけ、禮がすむといきなり「五はさんで願ひましては、と加藤先生が、ちっしうたのでびくりして、睨めけもせず中腰でやめた。

それから割算掛算の戸敷をした。なめなめわかりにくいのもあったが、十分か十五分たったかと思ふころ終つてしまった。晝食の時、三目飯で夢もはいてゐた。お味噌汁はなかったが、はすにんじん里芋などはいてゐた。

午後はお風呂なので山崎さん中根さんは我亦先生とお風呂を流したりいろいろなことをした。

出発用意の前に今日書いたお清書を返していただいた。思つてゐたよりよく優

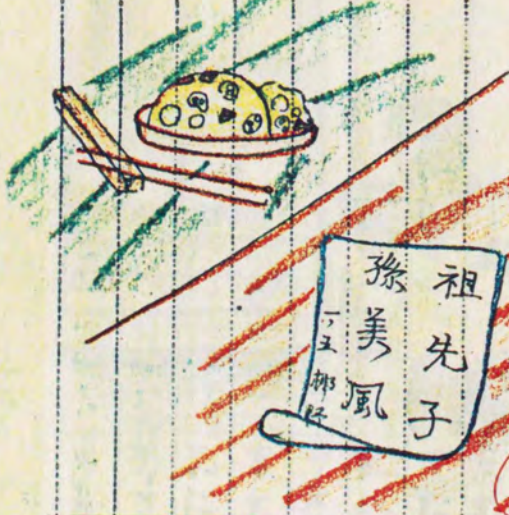
だったのでもう少しだった。字の形に注意と書いてあつたので、今度はうきをつけよう

と思つた。

夜は少しワロバンの練習をしてからお風呂にはいった。

一番だったので顔も洗つてさっぱりした。あまりうめたのであ

りれたが、とてもよい気持ちだった。





一月三十日 水曜日

朝食後官地先生が、五六年男子は御くらうだが味噌の配給に行きますとあしやうたが中止になった自習ばかりだったので尺鉢に當つてゐると十一時半頃急に又行く事になったので全部自習になった。お晝は昨日の夜と同じく大根里尊などの煮つけだった。午後半分の位いたたくと、五六男の人が歸つて来た。午後はずっと先生はいらしやうなめた。

夕食の時おつゆの中に鱈かはいつてゐた。それを平松さんがのどにさしたと言つたので、小泉さんと高島さんと私とでいろいろなこと言つてゐるが、それは笑つた。御馳走さまの時平松さんが笑をうとして笑ひをこめたので、さうあめしかつた。



ホランドニ

ササタ  
カラダ

を付けていた。あんが甘くてとてもおいしかった。七時少し前に茂木先生だけお話を聞きにいらした。それから、柿内先生に湖水のサトウ草を讀んでいただいた。インド昔話と同じやうなお話もあった。馬力をかけて前の方をあみあげて後もあみあげた。早くあめるといふなあと、思った。

毎日ちゃんと書いておるね。  
たゞその日にあつたことを書くばかりで、よく自分の  
思つたところ、考へることを書いて、いろいろいふ、  
日記にたりますよ。 一月三十一日

一月三十一日 水曜日

今日で今月も終つた。五日目の時間表で、算数の時、この前の時間のきをつけ、禮五はさんでを覺悟をして、始まる前に用意すると先生が笑ひながら、今度かうさうするのだとあしやうたので、つい笑つてしまった。國史は北條氏と平家氏が争ふ所をお聞きした。それがすんでから、すぐ上に行くともうつけ終つてゐた。



寮へ歸つてから、日があつて暖かかったが、火をおこした。それから、算数をしたりあみ物をしたりした。下へ日なたば、こまに行つた人もあつた。夕食の後で炊事場に行つて先生におどしをかけようとするので、反対側からおどしをいりになったので、だめになつてしまった。夜八百谷さんのことを体操の時間の天子様とかいふ人な人のことを言つてゐるが、阿部先生は先におやすみになった。チッキの所で、片側だけつける。と就寝用意になった。







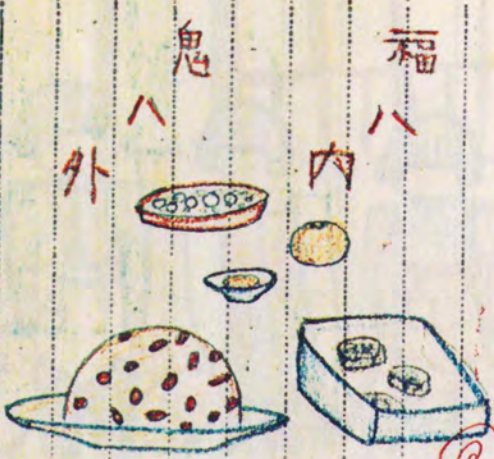
二月三日 日曜日

朝食後四年生と大根運びをして少し図書館に居ると全校運動の時間になった。先づかけ足をしてみようとして体操をした。いつもの体操とちがって胸立ふせや寝て手足を使はないで起きるのや、馬飛びなどあった。

一番困ったのは、寝て手足を使はないで起きるのだった。その体操がすんでからうな引をした。一番始め石黒寮の四五井として負け次は赤田寮として負け次は五年と二三部の六年生として負け一度も勝たなかった。

それから各組毎に赤白に分れてなわ取りをした。

一つたいこがなると一人でて二つたいこ鳴ると一人出て次々に出した。三回やるとお達の方か勝った。つな引きには負けたがなわ取りに勝ったのでせいせいした。午後は寮でそれぞれ好きなことをした。



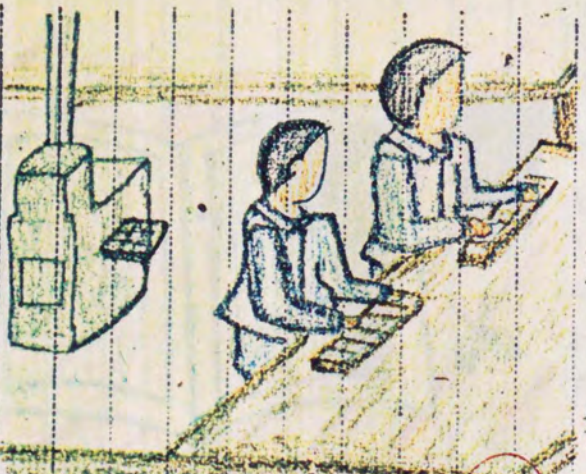
夕食の時今日は節分なので御馳走だった。お赤飯・煮付・鰯・みかん・がんなん・いり豆があった。さうしてお豆をいたただき頃、節分のいはれをお聞きました。口の中で福は内鬼は外と言ひながらいり豆をいたたたいた。東京は、いろいろうな所から福は内鬼は外と言ふ声かするがこちらではしないので淋しかった。

二月四日 月曜日

今日は立春でこよみの上では今日から春なのだが、春といふ気がしなくて、今までと少しも変らない。

図書はお米運びをしたので後は自習になった。

次は自習で算数を二時間ぶつとほしてやった。いつもの通りで、時間の始めに珠算をしたが、三年生が居ないので一ばんえつらん室でやった。始めの二三回は茂木先生もワロパンをはじめていらした。問題をお出しになつてわからない者は聞きに来いといふ、それとこれは同じくつたといふ図をむ書きになつたりしたので坂口さんとの顔を見合はせて笑つてしまった。柿内先生も笑つていらした。



午後寮へ歸る前に西尾寮から味噌・しょう油・塩を運んでから歸った。寮では算数を二時間書いて日記を書いた。それからお米運びをした。阿部先生はお歸りになるにすぐ繪を畫きにいらした。夕食は理科室だった。かいつものやうに暗くなつた。上は父兄會が何かに使つていらした。先生より少し早く歸ったし、ばらぐするに先生も歸つていらした。



二月五日 火曜日

今日は第二日目の授業だ。今日は二人に一つづつをけを  
持って行き十六本づつ運んだ。

第一研究の時間は、昔來てお人のお話それらもう古  
が起きたのはどうしてめらめらといふお話をした。

三時間目は算数だった。お裁縫は四年生も一ばんえつらん屋  
ので、自習になった。お裁縫は四年生も一ばんえつらん屋  
へ呼んで来てひひよう會をした。四年生は前めけお達  
は下着だった。四年生の前めけはお達の四年の時よ  
り上手なやうな気がした。ひひようとしてゐると、時間が  
経ってしまった。

午後寮へ歸つてから小林さんの小包を見せてくれた。い  
た桃色のやわいだい色のやきしいな毛糸がはいつてゐるの  
でうらやましくなった。それからキヤラメルを一つづつ

ただいた。みんなでも糸のあ  
げこをした。一ひろ二ひろなど  
と言つてゐた。一つの玉にして見る

に思ったよりだいたいあった。

夜はお風呂で、おめえを洗  
た。うめつてもすぐ熱くなるので

たまらなかつた。

あがつてめら二人に一つの割でめ  
めんをいただいた。あめ物をし  
てゐると就寝用意になった。



二月六日 水曜日

朝お米運びに行くこと主事先生と奨助先生が歸つ  
ていらしゃたつてよと言ったのでうれしかった。きつとお  
話があるわけはと言つてみんな喜んで。

朝食後堀先生からお話を聞きました。歸る日を  
いつおしやるめいつおしやるかと思つて耳の穴を大きくあ  
けて待つてゐたがどうとうおしやるのでかゝりして  
しまった。お掃除をしてから西尾寮へお積物の石を取  
りに行った。おめえめらなので外を二つ持つて来た。  
お裁縫は布に型紙をあてて先生をお待ちした。  
たたないうちに、サイレンが鳴った。

算数は割算の分数をお習した。  
お昼食はお煮付があつて、骨とも思へないほどやばら  
かい骨がはいつてゐた。

午後は少し遊んでゐると茂木  
先生が歸つていらしゃた。

さうしてお帳面を見せていただ  
いた。今のだしてはよい紙だった。

柿内先生が歸つていらしゃつ  
てから、口語と算数の本のい

けない所をわたりたり、のり

はったり、墨ではりつがしたり  
して夕食におくれしました。

たちがあった。









二月九日 土曜日

今日で食糧運ばんも終だ。お米運びだけして、大根運びはしなめた。算数は主にワロバンをした。後の方は公式を習った。音楽は今日は福光校がお休みなんで、音楽室でやった。六年生を待って、おなごらぬ藤先生のあひきになるそばで見た。みんなが、萩原さんと柳野さんひけば、とあまり言ふのでソナチネの一番をひいた。

晝食も昨日のようには理科室だった。歸る時久しぶりに先生と一しよだった。寮へ歸って来て少しすると山口さんがパンを持って来て下された。お八つにさつそく一つづついだいた。まだ少しあたたかくて、小豆もはいておた。メリケン粉でなく、こりやん粉で小豆は甘くて、あつうのパンよりおいしいやうにさへ思った。それから昨日のりんごをいただいた。塩水がついてあつたらしく赤くなつておなめた。



夕食後前の高等師範の先生をしていらして、二年前位からマニの学校の校長先生をしていらした。官越先生からマニのお話をお聞きました。お話のしおりがどれも面白くて、うらやましいなあと思ふのやめは、いさうにと思ふことなどあった。夜は昨日のはづだったため、今日になったお風呂にはいった。

二月十日 日曜日

今日は休養日だ。午前中はこたつに當りながら坂口さんに火星兵団を讀んでいただいた。

晝食は理科室でいただいた。すんでから急いで食器を洗って、音楽室で明日のお目出度紀元節の歌のあけいこをした。一番と四番だけ、なく、三番もやった。

みんなが歸って、お掃除をして、火を消した。すると、天ぷらでもあげて、おやうな音がした。歸って少しすると城端から野村さんがいらして、毛糸とお菓子を持って来て下された。とてもきれいな色の毛糸ばかりだった。おやつにも菓子をついた。甘みそがはさんであつたり、ごまがついておた。荷物の整理をして日記をつけた。夕食の時、御飯前にお寺へいらした。その先生方が歸っていらした。



夜は午前中と同じやうにこたつに當つて、おみ物をしながら高島さんに火星兵団を讀んでいただいた。こは、所へ来たので、うちへへ気を取られぬやうに、ふしぎな、櫻ん坊を見た。就寝用意を少しのばして、いただいたのおみ物が、思つたよりはあつた。







二月十三日 水曜日

今日は晴れなりとてもよいお天気だ。朝食後寮毎に  
日なたぼっこに小矢部川やその他いろいろな所へさ  
ん歩に行った。私はお掃<sup>ハル</sup>の人の荷物を持って、  
寮へ歸り長ぐつや運動ぐつにはきめへた。

それから西尾寮吉波寮中寮寮といっしょにまた  
の方へ日なたぼっこに行った。畠に雪がもつてゐてそ  
の上を歩いてもこぼれてゐてうづまうないのでなんだ  
か、空でも歩いてゐるやうな気がした。

しばらく行くといふきつと顔を出して  
暖い春の目をあびてゐる。先生方が第三きの化石  
を取りにやういふした。私は土手に腰をきりして日  
なたぼっこをしてゐた。しばらくすると先生方が歸っ  
ていらいして、化石や木化石を取っていらした。



それから学校へ行きすぐお食  
事になった。  
午後は小矢部川に行つて日な  
たぼっこをしながら日記をつけ  
たりきれいな石を拾ったり、あみ  
物を作したりした。俳句も五六句  
作った。歸るまでこのやうにいい  
お天気だといふなあと思つた。  
一度寮へ歸つて少ししてから夕食  
になった。

二月十四日 水曜日

今日も朝からよいお天気だ。それで昨日と同じやう  
に散歩に行った。私は三年生とといっしょに高宿橋に近  
い中州へきて、<sup>馬場</sup>やその他色々きれいな石を拾つた。

三年生はとも目つけるのが早くて五年生の方が負けてし  
まふ。うしろし物を見つけて三年生どころへ持つて行つて  
は又探した。お餅に似たのやドロップに似たのや、いろいろ  
のお菓子に似たのがあつた。

西尾寮の人はストリッポを持ってとてもきれいな所をすべ  
てゐた。私も西尾寮の人みたに上手になるといふなあに  
思つた。昼食に行くといふおあつた。

午後は寮の日記を書いた。お八つに干柿を一つづつい  
ただいた。たはがいくつあるかしらなと言つてかきへ  
ようとすると、一つしかあつた。



それから葉書も書いた。  
夜はあみ物を作したり本を讀  
んでいたたりした。  
のどがめはいたのでニミはいの  
んだ。  
娯樂會の題目をきめるのに  
何をしてよいかわからず四年  
生だけはきまつたが、五年生は  
教育講談の中のをすることに  
にした。



字をサレ大きくあかきひく

日記はためな、様にひきよ

あと僅かで帰るすねうわ、ひきよ

最後のまじりうわ、ひきよ

二月十五日 金曜日

今日は福光に居る最後の体重測定日だ。ふえてゐるといふなあと思ひながら準備室に行った来た順に計つてそれを自分々々で覚えてゐるのだ。どうぞふえてねますようにと、口の中で祈りながら、はかりに乗った。

へつてゐるらしいので、めりした。たいていの人はみんなへつてゐた。それから廿二学校の方の発表會が始まるまでお裁縫室で休けいした。しばらくしてから防室頭布を、持つて會場に行った。校長先生の開會のことばがすんでから空想座談會が始まった。午前の部で一番面白かつたのは猫と電車・お目出度小僧だ。午後も見せていたたくこ

太ッナムクドリ

ミグル

ミオイ

テケ

光ル

ナミ

ホリデウキ

レバ

オ...

コアがスル



草餅をたべたのでみんな笑った。後の方では、私あひふやくってすきたね、ってゐた。午後は娯樂會をきめて、鬼の面をするこじにした。あめと南京豆をあやつにいたたいて夜八時習した。高田先生がいらいしやった。

二月十六日 土曜日

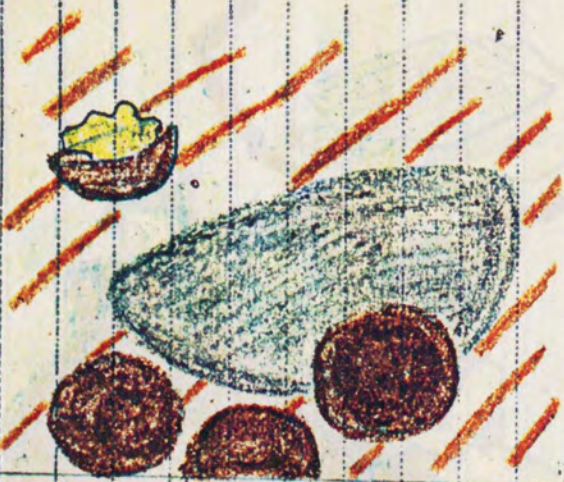
今日は二日目の授業だ。男の先生方は福井へ見學にいらいした。男の先生の授業はなかつた。二、三時間目は自習のはづだった。三時間目にもんぺの布をたった。前を切つてから後のをはいだ。

四時間目もつづけた。

午後は寮へ歸り日直さんは火をおこしてゐたので他の人だけで娯樂會のわけいこをした。しばらくすると大沢さんに小包が来た。それを先生にお見すると先生は學校へいらしやう。それから本を見せていたたいた。

早く先生が歸つていらしやう。ないかなあと思つてゐたがどうとういらしやうなめった。本田寮へ父あへるのわけいこをしにいらしやうたのだった。

夜は大沢さんの小包にはいつてゐた。うな、のやうな



お菓子とワッフルをいたたいた。グナツもワッフルも甘くてどてもおいしかった。それから衣しよをつけたので、わけいこをした。四年生のを見てあげたり五年生のを見てあげたりした。すんでからこたつに當つてゐると先生がくる。めをこつづつ下さした。うちでくるめをいたたいた。こともあったがやはりおいしかった。



二月十七日 日曜日

今日歌楽會だ。朝食後すぐに會場準備をしみんな前より始めた。刺達は一番後だったが吉波寮にめはって二番目にした。おもしろくなつてとうとう笑つてします。すんでからすぐ顔を洗ひに行つた。とてもつめたかつた。上へ行つてすぐ自分の席に行つた。

吉波寮のは相めはらず面白くてお上手だった。

私も二部六年のやうに上手にしたのと思つた。番外には、母の先生方の父歸るをして下さつた。何先生が何におなりになるのだらうと思ひながらおぼえるのを待つた。幾木先生がお母さん、柿内先生がお兄さん、高田先生が弟、米山先生が妹さんで、船橋先生が、お父さんにおなりになつた。もう一度していただきたのなあと思つた。午後寮へ歸つてから、お八つに、大沢さんの小包にはいつておたあうれと萩原さんめにはいつておたピーナツとあめをいたたいた。日記がたまつておたので早くおひつせようと思つて一生懸命に書いたが日記に気がむかひなもので、なめなめはめどらず、とうとう夕食になつてしまつた。



二月十八日 月曜日

一時間目は自習だったので、次のお習字の用意に手をあたためた。二三時間目はお習字をした。源氏平家物語のどぶ書をお習ひした。もう、歸るまで少しめないで一度にれん習した。手やめじめむと火に當り又つづけた。お裁縫はこの間のつづきををした。

晝食後お掃除をして歸るのがおそくなつてしまつた。すぐ火をおこしてぶうぶういいた。みんなもんべをたったりぬったりしてぬた。少しするとをばさまがせけぬすを焼きますめち下へいらしゃいとおっしゃつたので先生に申し上げて下へ行きお火鉢をのこんで一枚づつ順々にいただいた。一枚いただいたが又次々に下さつて三・四枚いただいた。



夕食の時顔が赤くなつて来て困つてしまつた。たいていの人は赤い顔をしてぬた。お知らせがあつて先生の方をむくと笑つていらしゃつたのではづめしくなつた。夜更めめんを半分づついただいた。とてもすっぱめつた。それめらくるみを三つづついただいた。就寝用意までこたつておしゃべりをした。

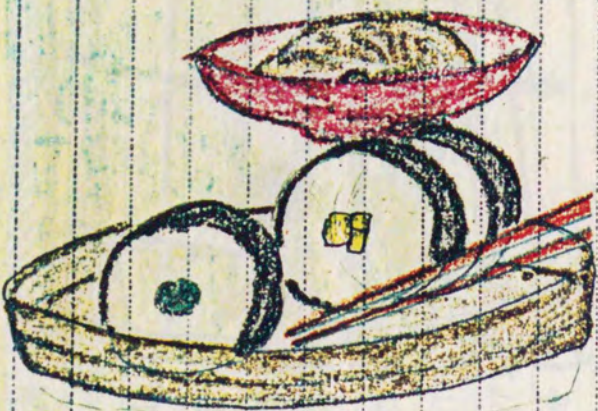


二月十九日 火曜日

圖画はたんどくを書きまなほして色をぬった。

それに今日は暖くて手もつめたくなかったので日記に精を出した。そして又火鉢に着火していると、八坂先生がいらっしゃって喜門先生がお歸りになったぞ。とおっしゃったのでわって言って喜んだ。又少しするに米山先生も「喜門先生がお歸りになったわよ。とおっしゃった。理科はアルコールについて本を讀んでかびのことやばりきんのことをお習ひした。晝食の時廊下でお會ひした。一月以上見ないので、おはりになったやうな気がして、何もお話をしたいやうな気がした。

午後はお風呂たきをして先生はすべて學校へいっしょした。夕食は御馳走で、のり巻ずしたら、蕨付があり御飯もいつもの半分位あった。



夜りんごを一つ一ついただいた。いただきながら三ホさんのやぶくろをあげた。

さうして我々先生にのしと書いていたたきやうにお願いした。お風呂やり出していつもより早く収めた。治れうの時うめと血のまざったのが出て来てやうとしてしまった。

二月二十日 水曜日

一時間目の算数は円周と直径を計って直径の何倍々をお出した。わくわくやってもきちんとした倍數にならないうちにサイレンが鳴った。

国語は、一さしの昇をするはずだったが、もう出来なくなったので、みんなの音と訓をお習ひした。これは面白くはないが大じだと先生がおっしゃった。圖画はしあげをした。

午後は算数の時間にしたやうなことをしたかむくらやんちもやはりだぬだった。夕食の時三ホさんの所にのしと書き赤白のみづひきをおけて置いておいた。

それに先生に喜んでくれたのでおめしくなった。岩丸先生にみんなでお手紙を書いた。私は歌樂會のことスキーのことその他変わったことをお知らせした。



このお手紙を御らんになったらきつとお喜びになるだらうなあ。夜いっしょにやしらうもなめなめ歸っていらっしやうなめった。やうと八時頃になつていらっしやうな。

就寝用意の時先生が、これからみんながい子になるまで東京へ行ってみんなの歸る前の日に来るとうそをおっしゃった。



二月二十日 水曜日

今日は六日目の授業だ。朝食後火鉢に當つてゐると、加藤先生がいらつしやうたので、お酒の見學をさせていた。五年生だけだと思つてゐると四年生も三年もたった一番始めから座を見せていた。ここになつた。はいつて行くにむうとしてお酒の香がした。寒暖計は二十六度でホは少ししつけを持つてゐた。そこを出てお米を洗ふ所へ行った。機械でやつてお米のとき計と同じのがたれてゐた。そこを見て二階へあがりお酒を見せつていた。先生方が少しづつなめて御らんになつて甘いといつていらつしやうた。そこで少し説明を伺つて下へをりた。さうしてお酒の素を一人づつ順番に見せていた。これでだいたひ終つたのですぐ學校へ行った。四時間目に國語をしてお晝食になつた。



夜はみんな始めは本を見たり自分々々のことをしてゐたがいつのまにか大抵の人はお人形作りを始めてゐた。私は小さくつ下をあんた。百合子をばさまと春子をばさまが布切のこつてをめて下さつてそのうへお人形を作る本もめて下さつた。夜は近藤先生がいらつしやうた。

二月二十日 金曜日

今日は休養日だ。洗面がすんでから火鉢に當つた。いつもならはお風呂だが火がせの日だし先生もいらつしやらないのでお風呂をたてないことにした。

午前中は百合子さんや近藤先生がレコードをめて下さつた。前にめていたたのも大郎あつた。俳句し業のを聞きながら、私達の俳句もああいふのだった。う一日に十句でも書けるわと言つた。アメリカのもあつた。

午後はマジヤンをしたり将棋をしたり色々なことをした。私は徳ちゃん、誠ちゃん、平松さん、高島さん、近藤先生、迫水さん、八百谷さんとマジヤンをした。

お人形を作つてゐる人もあつた。すんでから少し日記を書いた。夜も午後のやうに百合子さんや春子をばさまがいらつしやうた。



いつもより三十分早く就寝用意にし、御あいさつをしてから八時から玉音ほう送があつた。おこたつに當つて八時迄他のほう送を聞かせていただいた。この工員さんとはどんなに有かたの氣持がしただらうと思つた。



二月二十三日 土曜日

今日は一日目の授業だが、午後種痘をするので午前中お風呂にはいることになり五年は朝食後すぐ歸りお風呂たきをした。をばさまがたきつけてをいて下さったので、薪だけどんどん入れた。さうして十時頃から六人づつはいった。お達のほめる少し前に喜門先生がはいりにいらした。

晝食後待つても待つても、種痘の者が廻って来ないので、まだめまだめとお裁縫座で待つてゐた。三時すぎ位になつて、やうと講堂に行つて、並んだ。手をまくるとやうとした。よく夏このやうにしてゐられたなあに思つた。夕食はさばの味噌煮があつた。

夜お水さんの小皿の中にはいつてゐたチューインゴムアメヒューツをいただいた。



少しすると阿部先生が歸つていらした。茂木先生と同じ汽車だったにおもしろいのできつともうちきいらしやうね、と云つてゐた。その通り少しするといらした。なんだか一月もお會ひしなかつたやうに思へた。お酒の見學をさせていただいたことやこの二日にあつたことをおはなしした。

二月二十四日 日曜日

今日は寮毎に娛樂會の練習をするのだ。

お達は、一はんえつらん座へ行つたさうして何をしてよいかを考へたかなかなかに思ひつきが浮かばない。新聞を見たリ本を見たリしてゐると三井の人々が音楽の練習をしてもどつて来た。新聞にはいろいろな記事がのつてゐる。宿のき町の天然痘のことも出てゐた。有がたい事だと思つた記事は、皇后陛下が、戦災児の所へ行啓になり暖かいおこしを賜つたといふのだった。本當に戦に負けたといへ有がたい事だと思つた。

午後は寮へ歸つてから理科の日記を書き自分の日記を書いてから明日の算数の考査の練習をした。

貫勿介はきつと出るだらうと思つたのでそれを中心としてやつた。



夜は圖画の成績物をかへしていただいた。手さば模様、れん續たんぼく模様、木を中心にした校舎を返してゐた。だいてから中級で、阿部先生のおめきになつた繪を一枚づついただいた。おはお宿の境内のだった。おうちのお土産にしようとおやにしました。



二月二十六日 火曜日

國語は塗物の話を終った。

二時間目はお習字のお清書なものでその前に手をう

んとあたためて用意した。男子はそれは時間の終り

ろになつたら書き抛めるんだにのん気なこはかり言つて

おた。なかなかなし思ふやに書けなかつた。あ

きをいづ、耳づけを教へ

四時間目もつづけてやった

午後は先生の歸つていらしやるのを待ちながら日

記を書いた。それから布にすめて名前を書き、スキ

につけひもで上下をいはいた。さうして皮ぐをはずした。

1. つもより少し早く出發用意にして西尾療へスキーク

持ッて行ッた。大中小に別けて置いてあつた。

夕食の時ネーブルに三座かんをいたしたにた

夜を宿座へ行つてレリト云

お聞きなさい人々一をいた

たいた  
丁卯  
七三  
のナ  
カ五  
見え

阿音先生にあやむ

いたたき点をわけーいたいた

北の  
もへに輝  
玄出

し下へた

夕食の時角帖を返し

たはにた  
まや  
や  
も  
に  
と  
り

へ  
き  
さ  
す  
一  
に  
て  
ぬ  
た  
め  
う  
い  
し









三月一日 金曜日

今日から新しい月だ。帰れるし五年生も修了するしうれしうことばかり前にひかえてくる。

午前中は山崎さんと平松さんと三人で床屋に行つた。早いのでお客さんもいらしやうなめった。

昨日の寝ようが悪かったのでもう水をつけておかしでもぴんとなつておかしを見るにおかしななつた。

短くしていったのですうとした。寮へ歸るとみんなもめた。三宅めんを昨日のやうに二人につづつた。

お晝までの少しの間もんぺをぬつた。晝食の時夏いうのお晝御飯だつた。

午後は図書館の階上でプログラムを書いた。お晝は平松さんと前田寮のわらべ歌のにあたつた。途中で一冊六年が来たので瀬川さんに繪を書いてもらひ。寺田さん

に題目を書いてもらった。みんなのひとほり見てから下へ行くので度々食つた。況あ

んやあつた物があった。後で夜歌の練習をしてすぐあへつた。夜明日の感謝の會のお

けいこをして就寝用意を九時までのばしていった。

八百谷さんは石崎さんへの送りものを書いた。

一、開館の金

六、ゆり歌子とち 前田寮 その他

二、春の歌 井田寮、中田寮

三月二日 土曜日

今日は感謝の會の予行練習をする日だ。朝食後の少しストロブに當つてゐると河野さんが練習をするからみんなこいて

と言ひに来たので飛んで来た。さうしてさうく始めた。先生方のは飛ばした。私達は六番目で本當だったらホアリ

演奏の次だがそれをしためった。すんでから晝食まで一ぱんえつらん室に行きストロブのまはりで自分の日記をつけてから寮の日記をつけた。

晝食の時ともからくお箸でつかめる位なめれがあつた。もうリヤン靴だつたのでとても洗ひにくかつた。

午後は福光校の生徒さん方に感謝の會をお見せした。最後に堀先生の作品があつた。相変らず火を食べるの

だつた。よく聞えないのやよく見えないのが多かつた。すんでから六年生はあこし

まつをして下さつた。私達はお裁縫に行つた。晝食まで日記をつけた。夕食の時、いかに半正

づつあつた。とてもおいしくつた。夜吉波寮の方からお風呂へはい

りにいらした。さうして一しよにはいった。お湯が多いわね。

とがずの分明るいわね。と言つて、ちやうどつたのでめ

はいさうになつた。

はいさうになつた。





三月三日 日曜日

今日は三月三日 あひな祭だ戦争中めざれなめたあひな様もきつと一度はめざっただらうなあと思ひながらその様子を頭にあげいた。朝食後先生方は成績會儀をなさるので、私は二ばんえつらん室に行きストーブにあきた。山崎さんが私の日記をわけてくる所を寫生してゐた。私の顔によくにらめるやうな氣がした。

それからふざけて、たるまを作ったがなまなめ可愛くならなめた。それから今日の日記をつけた。たまたまぬた時は日記を書き直したのはいやだったがをひついたのでたまたまぬたでも書くのに氣がむいた。

午後はいよいよ本當の感謝の會を福光町の方にちて見せするので服製を正して入場した。もう沢山見えてた。昨日よりずいに見やすめた。次々にすんで六番目の和



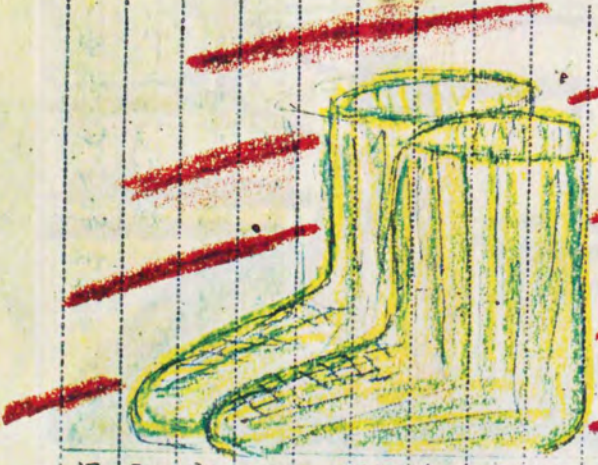
私達だ。あまりめたくならずにつつものやうにした。最後に松村氏の御あいさつがあつて涙が出さうになつた。夕食はおこは、煮豆、さめ、みんのく、んづめがありすんでから歌を歌ひさうしてすんでめらだれめをさした。私は當たらち菓子の子のすきなパリ、娘をしようと思つたがうんよく當らなめたのでよめた。夜は林田さんからいただいたあはぎを二つついたいた。

三月四日 月曜日

今日は朝食後製服でない人は寮へ行って着るえて六年生は夜庭に机や椅子を並べていらした。私は玄関前の石に腰ををうして日なたぼっこをした。みんな來て少ししてめら机や椅子の上へ乗って寫真をとる用意で並んだ。私は後めら二番目の机の上だ。せかく並んでゐるのになめく寫真屋さんがいらした。石田先生が、日なたぼっこだ日なたぼっこだとおっしゃったので、ううじれつたくなつてしまつた。時々お日様が雲にくくれて、今にも雨が降りさうなお天氣になつた。待ちくたびれてゐるとやつといくらしやつた。二枚とつて福光橋へ行かうとするに雨が降り出したので急いで寮へ歸つた。おうちの方がこたつのお部屋へよんで下さつた。

あたらせていただいた。午後には寮で先生の送り物の繪を書いた。私ははいつ句を八句書きに丁度あてはまるやうな繪を書いた。

それからあみ物やもんべをぬたりしてゐるうちに出發用意になつた。夕食も晝食のやうに團圓室でいただいた。スキー用わらぐつをいただいた。





三月五日 火曜日

朝からとてもよいお天気だ。朝會の前に山崎さん、野村さんといっしょにお酒のびんを前田寮へ持ってきて来た。阿部先生は寝ていらした。

朝食後すぐ寮へ歸って荷物を二つに分けてまとめた。お部屋の中はごったがへした。前野さんのふん包の上へはずめが巣を作って下に大穴があいてゐた。とてもくさくさして逃げて来た。毛布やタホルでくるめ風后しきでつつんだ。思ったより少いので安心した。お机やすげ笠も西尾寮へ持っていく。さうして机を置いてゐたのがあいたのでそこへ荷物をつつんだ。もう荷作りめと思ふにへんたな気がした。晝食の時少しおくれるが寮の前で小母様小父様や梶ちゃん、誠ちゃん達に並んで寫眞屋をとった。近所の小供がみんな集って来たものではづかしくなった。晝食の時オレーがあつた。きつと最後のカレー。ほなほなと言つていた。午後は荷物がまとまっていたので、日記をつけたり火鉢にあたりながら詩吟をおけいこした。六時頃着子をはさまが、プログラムを書いて持つて来て下さった。私はわりあひ後の方だった。途中にモトちゃん、ターガン、森田さんの佐渡



あけさや、阿部先生、我木先生の獨唱や柿内先生のお話もあった。阿部先生は明日招待する方の名前を書いていらした。七時頃、おうちの方に招待され、お座敷に行きおぜんの前にすわった。めずらしい御馳走ばかり並んでゐた。御飯は白米にあつてはおとうふだった。どれから手をつけてよいかわからない位だった。二三はいおめはりをしてそろそろおしまふになるころから一人一人で歌とお話をした。をどりをする人はみんなおうちの方からあかりした。おふりそでで、とてもきれいだ。モチちゃんのターガンも面白かった。私は詩吟をした。九月十三夜、ベンせいしゆくしゆく、あさみどりの三つだけした。番外におふりだいにいらしたをばさまが、しゃみじんをおひきになった。それに合はせてお手手つないで、ここはお國を何百里をみんなて取った。最後に前田さんの萬歳と、高師の万々を三唱した。お部屋へ行きすぐおふりんをのべて寝た。いつもより二時間おそく十時だった。今日は一日中楽しめたと思ひながらぐっすり寝た。



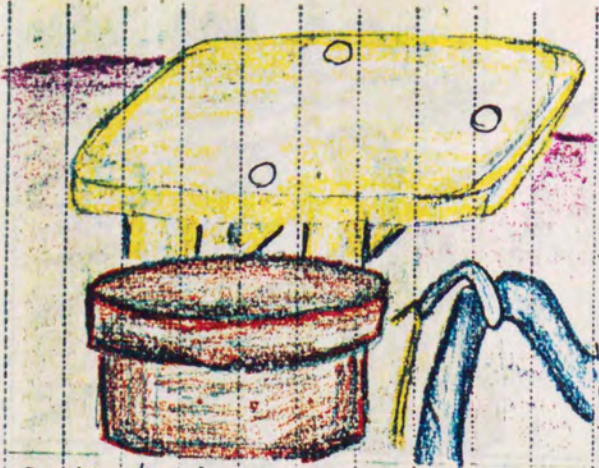


三月六日 水曜日

今日は地久節で母の日だ。朝食後急いで、甘學校のお裁室に行つて体重測定をした。来た順に並んだ。私はこの前より、5ふえたが、来た時よりは5ふへてゐる。洋服を着てすぐ本田寮へ行き、あべん當箱餅米・普通米をいただいた。雨が降つてゐるので傘をささずにはゐられず持ちにくかつた。

一歩から順に最後のお風呂にはいった。熱くつうめてゐるうちに、いはいになりめんがはいると一度にあふれ出た。よくあたたまつてから、湯ざめをしないやうにすぐ洋服を着て行った。下駄や鼻緒も一足分づつにたいた。

午後は先生はいらしゐらなかつた。夜の謝恩會のことであつた。夕食の時、七人の人はお酒を運び後の九人は、ちり取りやバケツやほうきを西尾寮へ運んだ。夕食から今日いただいた丸いあべん當箱に御飯を入れた。お皿でいただいたのは、あべんが違つて、とてもおいしかった。塗りのにほひもなかった。夜はなかなかに先生が歸つていらしやうなもので、いつものやうに早く寝た。ここで寝るのもこれで最後だ。



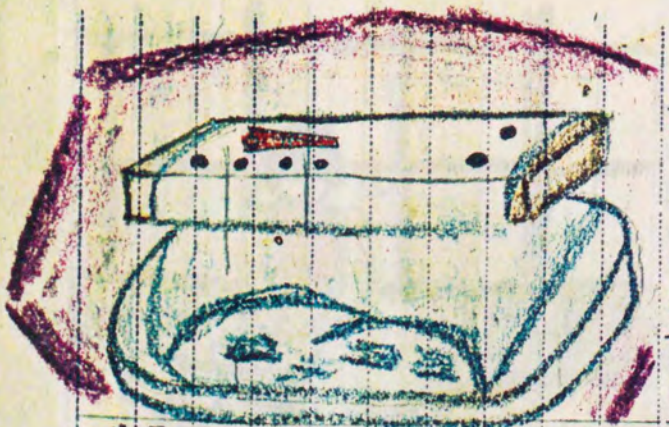
三月七日 木曜日

とうとう歸る日が来た。今までは楽しみまして後の日と言つてゐたが、今日となるに、さびしくなり福光に居たくなった。起床をいつもより一時間早くして、ふろしきにあとんといしよに送る物をまとめて包んだ。私はふとん袋だった。出発用意の時、迫水さんのおとどけ物のピーナツとピーナツのはいつた雨をいただいた。行く時、傘立てを西尾寮へ持つて行った。

朝食は理科室だった。ごまやて、味噌もあつた。

すんで少ししてから福光校とち別れのお式をした。そのあとで、からの西びんを前田寮へ運んだ。歸るともうお書食だった。あべん當も四食づついただいた。寮へ歸つた。甘學校のおみやげのうへに前田さんから大福餅とお人形らしいのをいただいた。下へ行つてお禮をしてから、少しの間、おこたにあたらせていた。

たいた。三室くわんもいた。雪の降る福光を寮の方々に見送り、一時五十四分の汽車で福光をたいた。うれしがあうちの方とお別れするのは悲しかった。大沢さんが泣きながら、さしたのでみんなが笑ってしまった。本線に上つてすぐ夕食をいただいた。ガラスかないの、ふうしきや線は何重にもした。





三月八日 金曜日

朝目がさめたのは五時頃だった。いつものまにや、もう高崎まで来てゐるのでびっすりした。さい玉ももすぎ、大倉のあたりで岩丸先生と大橋先生が乗っていらつしたのでとてもういれかけた。八百谷さんのお父様お母様もいっしょだった。お母様も早くいっしょして下さればいいのになあと思つた。上野に着くと、いろいろなお母様が来ていらつした。やこから省線に乗り大塚へ向つた。さうして焼野ヶ原を左右に見て學校へ行つた。門の前に、えんこ疎開組の六年生や女子校の人がお迎えして下さつた。一度解散して荷物をおき、一、二三年のお教室で朝食をいただいた。お腹がすいてゐたので、二食分いただいた。それから屋上へあがつて、焼あをを見をうした。えんこ疎開組の

## 焼野ヶ原を



人はお達が寒い寒いと言つてゐるのに元気でボールをしてゐるので、感心してしまつた。十五分位してから、お教室に行き前した寮からお母様の所へ行つた。先生にごあいさつをしてさうさで歸つた。思つたより電車はすいてゐた。うちへ着いたのは、二度向ふへ居た時のお晝食頃だった。

着物を着返へて、お晝御飯をいただいた。夕食のあとで前田さんからいただいた大福と、進ちゅう軍からのコーペーパンとゼリーをいただいた。夜は少しもよりをうく寝た。

三月九日 土曜日

朝早くから起きたが、お母様がまだ寝てゐてもいいとおしめたので、六時半まで床の中に居た。さうして洗面しておきたのお部屋へ行き朝の英語遊びを聞いた。それから御飯になった。午前中は、お母様がお米を取りにいらつしたのでお一人でお留守をした。風はあるが、日があつてゐてとてもあたたかい。おんがわに出てお晝御飯をいただいた。背中にお日様を受けてとても暖かだ。一、二ビンに水を入れてお度に出していただいたのが三時頃。暖かいお湯になつてゐる。

午後はお兄様が歸つていらつした。それから算数を教へていただいた。今度こそは今までよりうんと勉強しようと思つた。

夕食の時、お姉様がおめづの時間に作ったおすしとゼリーとパンとおいもで作ったあんこをいただいた。とてもおいしかった。お風呂にはわり湯がめをしないやうにすぐ床にはいった。今日も一日中楽しめた。





三月十日 日曜日

今日は學校がお休みなので一日中にぎやめた。  
朝食がすんでからお風呂のお湯で廊下至所の雑布  
かけやお玄関のお掃除をした。

それから日記をつけたりした。お母様とお姉様はお  
洗濯をしていらした。お晝御飯をいただいてあと  
お茶をしてから少しおりにこたつにあたって、マージャンを  
した。お母様はしながら晩の御馳走の用意をしてい  
らした。四時になったのでやめて、片付けてから少し  
の間廻るくわん少国民を見た。今までは、本ざらひだっ  
たがお母様が本をよく読んでえらくなりなさいとお  
っしゃったので、今度からひまがあったら読むことにきめ  
た。夕食の時、さつまぎんごんのからあげをいただいた。  
甘くてとてもおいしかった。お肉のためにとっておいで下さ  
カラ  
たのだと思ふところでも有がた  
あった。今日は英語遊びがすんで  
の、復員たよりに耳を傾けた  
が、佛印のことははっきりとはな  
いので残念だった。あのまま此處に  
居ればもう歸つて来て居たはずなの  
にと思った。満洲のお兄様も早く歸  
つていらして、六人揃って暮らしたり  
どんなに楽しんだらうなあと思った。  
おふいんにはいってもなかなか寝むれ  
なかつた。

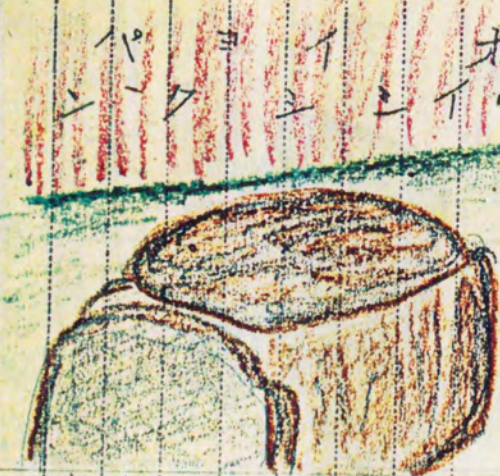


三月十一日 月

朝からとても暖いので一昨日のやうにおえんがわに机  
を出して、もんぺを縫った。お母様は區役所の方に御用  
がおりでいらした。お母様は區役所の方に御用  
三つ折縫をしてぬるに歸つていらした。それからお晝  
までお母様はお縫をしてお母様は畠にこやしをおかけにな  
った。畠にはいろいろの種類の葉が青々としてとてもお  
いしかった。お母様もすくすくとのびてゐる。お庭には越  
所もない位に畠でうづめつゝされてゐる。

御飯がすんで少しするに辰パンの配給があった。お腹  
をすまして歸つて来るお姉様やお兄様はどんなに喜  
びだらうと思った。お母様も又少しおりのなものでとてもおいしく  
った。午後もお母様は、便所局へいらした。たりありそ  
かしさうだった。三時頃石田さんがいらした。

夕食の後で、今日配給になったパンをいただいた。  
おはじけんすいでなやうだが、  
さつまいもの粉がはいてゐる  
しくて甘かった。これよりパン食  
になつてもいいなあと考えた。



何だか、進ちゆう軍からのパン  
よりこの方が色は黒いがおいしい  
やうな気がした。だが、ミカアサ  
が日本の食糧をこんなを救つて  
來れたのだと思ふと、そんなぜい  
たくは云つてゐられないと思つた。



三月十二日 火曜日

朝食後少し休憩しつゝ日記をつけた。お母様は昨日のやうに畠の手入れをしていらっしゃる。私もお手傳ひをしようと思ふが、つい日記の方に手が行ってどうしようしないうちに、お母様がいらっしゃったので悪いことをしたと後悔した。ちよつと外へ出て風が吹いて寒いのので、ついうちばかりに居る悪いくせがついてしまった。

午後は少し算數をしたが、わからなくなつたのでやめて、今まで書かう書かうと思つてゐて忘れてゐた前田さんにお禮狀を書いた。ポストに出しに行く途中、近所のおさな子供が、あづらしさうに見てゐるので、恥しいやうな気がして、かけ出した。

夕食後、ゆうまいに、食パンをいれた。御飯をいれたいて、いろいろなお話をしてゐる。今まで聞えたラ

### 停電の夜

チオが聞えなくなつたと思ふと、電氣もぽつと消えた。つゞまで起きてゐようと思つたが、なかなかつきさうもないので、ロッキのあかりで、いんをひきさつと寝た。どうして一晩中停電だった。今日は寒いので、方々に電氣コンロを使ったから、こうなつたのだらうと思つた。電氣のつかないのは本當に不自由だと思つた。

三月十三日 水曜日

今日は水曜日なので、お様の他は全部お休みだ。朝食後少しの間、英語會話のおけいこをした。それから、算數をして、もんぺのポケットを縫った。ひだもどつて、割合よい形になつたので縫ひつけた。晝食後はもんぺに名前をつけたりして、つゝ日記を書き、二時頃お菓子の配給を取りに行った。

一年間も、狭路を歩かぬたので、どこがお菓子屋さんか忘れてしまつた。福光でもいったただなかつた。あめだつた。それから少しピアノをひいてゐると、お兄様が歸つていらした。あめをなめながら、夕食の三十分位前までピアノをひき、少しの間算數をした。

夕食後、お姉様にローマ字のくづしたのを教へて、ただき、自分の氏名を書くおけいこをした。一生懸命覚えて

### 苦心して

早くすりすり書けるやうにしようと思つた。

朝夕の英語遊びも、たんとんと覚えて、英語でお話したいなあと思つた。

やうと覚えて、自分の名前のローマ字を指で牛に書きながら、いつのまにやら、寝てしまつた。

とつや



出来上つた

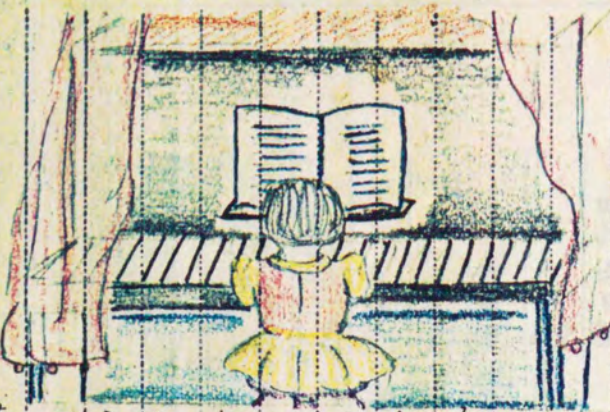
もんぺ



三月十四日 水曜日

起きる時いつもなうぬむたくないが今日にめぎつ  
てなかなめ目があめなかつた。だがみんなも起き  
てゐるし、時間が来たので起きた。顔を洗ふと眠気が  
すめりてれてさっぱりした。

朝食がすんでお師様が學校へいっしょして少しの間  
ローマ字のあけいこをした。それから机の所へ行き、五年  
の後期用の算数のおうよう問題の所だけ復習した。  
一度したのにめめうない所もあった。六年になり数学  
科になつてから困らぬやうにこのお休み中に後期用の  
本を全部しようと思つた。今日にめぎつて、いつもより時  
間のたつのが早いやうな気がした。暖い日を背中を受  
けて、ポーチで、お昼食をいただいた。ユースを聞きなが  
らお母様は、午前中島から帰つていっしょした人參や大根



を洗つていっしょした。天気予報を聞  
いてから一時間、ピアノのおけいこ  
をした。昨日の配給のあめをなめ  
た。それからお母様が、お買物に  
いっしょしたのでお留守番をした。  
鉛筆をけつたり、今日の日記をつけ  
た。夜お兄様にローマ字の大文字を  
教へていただいた。これから毎日午  
前中は算数、書食後一時半までは  
ピアノ、食まで日記、その他夕食後は  
英語をすることに決定した。

三月十五日 金曜日

朝食後お掃除をしてから、お師様と机に向つて、私は算  
数をした。日記をつけた。お師様はもう卒業なさる  
ので、さいん帳を作つていっしょした。お師様が十二時ま  
でに學校にいらつしやるので、少し早く御飯をいただ  
いて、少し新聞を讀んでから、ピアノの練習をした。新  
聞に、東京都三十五區と武蔵野市三鷹町に米軍から  
をくり物のコッペパンが配給されること書いてあったので  
うれしかった。早く配給されることいねは、みんな  
言ひあった。少し新聞を讀では手を暖ためて、又  
ピアノをひいた。お兄様が歸つていっしょしたためですぐ  
やめた。お庭に日があつて、暖かさうなので、島の見  
物をした。がう散歩した。ふきのとうが首を出して、春の  
日をいっばいすてゐた。高なやぬぎが青々としてゐ  
た。ちようじの木に、かまきりか  
あつたので、枝ごと取つて、これを  
さう先せうなるが所蔵しよう  
と思つた。夕食後の英語遊びを聞  
いて、少しローマ字のあけいこをし  
てから少ししゃべりながら、こたつ  
に當つてあつた。たまつてから寝た。  
お母様はあやぐまであやぐまで  
お仕事をしつていっしょした。あつ  
おれになるだらうと思つた。





